常磐毎日新聞

日刊

十一月十三日夕刊

定價 一部金貳錢 一ケ月金五拾錢 郵税五厘
廣告料普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本忠治
福島縣[illegible]三五
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社
（振替口座）東京 四〇二二〇番

天氣豫報
今晩は北西の風曇時々晴
明日は北西の風曇時々晴

中學校長會終る

選拔考査の方法は口頭試問のみに決定

試驗地獄の緩和よりも國民教育の破壞を警戒

縣下男師並に中學校長會議は十二、三の兩日に亙り磐城中學校に開かれ縣から和田學務部長、影山教育課長が臨席十三校長參集の上『本年度射擊大會の實績に鑑み改良すべき點、如何』外五題につき愼重な協議を遂げ今十三日正午終了したが來年度から改正される入學試驗制度に關しては縣の方針に基き筆記試驗は廢し口頭試問のみで行ふことに決し許される範圍內に於て各學校は夫々試驗課目を運用することになつた、然して口頭試問のみによる考査方法は一方的に成績が好くても所謂〃氣の少さい者〃は損であるから不公平であると論難される向も多いのでその點を深く考慮の中に置いてその欠點の除去には遺憾なきを期することになつたが元々該試驗制度の改正は小學校に於て準備勉强をするため入學志望者はよいが多數の非志望者の教育に支障を來し國民教育の施設を破壞する結果になるのでこれを防止せんがために設けられた今般の制度である故入學試驗制度としては果して最良の方法かどうかは實施後の結果でなければ判らない

科學美の一偉觀 平神橋竣工

舊國道を三百米短縮 十餘町の直線道路完成

平市、神谷村間を直線に結ぶ鎌田山開鑿並に平神橋の架橋工事は工費十七萬圓と一年有半の歳月を閲し愈々竣工の運びとなつた、同架橋工事は豫想より河底が軟弱なため補强工事に五ケ月を費ひしたが科學の力は遂にコンクリート、グルバー式の延長百三十五米有効幅員七米五〇濱通隨一のモダン橋の完成を見せこのこめに從來の鎌田橋を經由する國道より三百米短縮されて市內一丁目より鎌田山まで十餘町が一直線となり東北一の長い市街道路の現出を見た

尙ほこれが開通渡橋式は明十四日盛大に行ふ豫定のところ防空演習とかち合ふため演習終了後に改めて行ふことになり以前の鎌田橋はそのまゝに存續する事になつた

平神橋開通式 十六日と決定

（別項）平神橋並に新國道の開通式は十六日午前十時から地方有志二百餘名を招待、平神橋東岸に祭壇を設け左の式序で擧行することに今十二日決定を見た

修祓、降神、獻饌祭主祝辭、玉串奉奠、撤饌昇神主催者祝辭（福來技師）來賓祝辭

けふ開催された 磐中美術展

早くも入賞者決定

（既報）三日間に亘り市內磐城訓盲院に開催される事となつた磐中美術部主催第四十九回X會展覽會は今十三日午前八時から審査された、出陳點數約二百五十點いづれも力作揃への事とて一般觀覽者の好評を博してゐるが入賞者は左の如く榮ある白鴉會奬勵賞は五年四組野木健男君が獲得した

「夏の茂み」一ノ四田口實「窓」同鈴木高光「風景」二ノ三四家實「村」同鈴木重雄「お宮」三ノ一鈴木晋平「池」三ノ二篠山逵兒「夕燒」同高階文三「秋」三ノ五金成桂二「秋晴」四ノ一堀英一「自畫像」四ノ四御代次男「漁夫」同藤社明「宮炭礦」四ノ五小泉美則「炭礦」五ノ一渡邊和夫「水に映ゆる秋」五ノ二片寄藤次「秋色」五ノ三三田實雄「秋の流れ」同川上正義「架橋工事」五ノ四大塚靖義「秋の山」同野木健男「溪流」五ノ四馬目一郎

盛會を豫想さる

明日の平商珠算競技 參加者百十五名

平商業主催の校外珠算競技大會は愈々明十四日午前九時から同校に開催先づ服部教頭の挨拶後武川教諭の競技に關する注意あつて競技に移る筈であるが參加者は左の如く第一部七五人、第二部九人第三部三一人の計百十五人で盛會を豫想される

▲第一部（小學校兒童男子）尋常科男子―平第一、四倉、湯本、入山、大浦、（同女子）―平第二、湯本、入山、四倉、（高等科男子）―平第一、湯本、夏井、四倉、（同女子）―平第二、四倉、夏井、湯本

▲第二部（市町村吏員）平市役所、川部村、四倉町、鹿島村、內郷村

▲第三部（銀行會社員）磐城無盡、昭和人絹、古河炭礦、磐炭常陽銀行平支店

尙市內兩校の出場選手は左の如くである

△第一校（尋常科）辻啓之、鈴木仁、佐竹五郎伊關次郎、根本幸三郎（高等科）星俊二、白土竹治、小野正吉、飛田常重、小林康秀

△第二校（尋常科）遠藤千枝子、遠藤トツ、滑野俊子、荒井利子、田卷陸子、（高等科）金澤キヨ子、鈴木光子、馬上文子、高瀨ムラ、加藤春子

不屆なエロ漢 傷害罪で起訴

勿來町大字酒井字出藏大日本炭礦採炭夫大江田正雄（三〇）は今十三日平檢事局大脇檢事の取調べの上傷害罪で起訴された

同人は去月二十日午後十時半頃近所の芦名ミサヲさん方で同人の袖を引張り惡戲した際居合せたミサヲの母ツマノさんに叱責されたのに憤慨平手で同人を毆打全治三週間の左鼓膜裂創及び左中耳炎の傷害を與へたもの

女許りと侮つて 忍込む痴漢

平署に檢擧さる

非常時銃後陣を紊す不德漢平署に檢擧さる―小名濱町古港作山利雄（三[illegible]）は去月五日午前四時半頃同町上町某食堂須藤タキ假名さん方の二階女給部屋に忍びこみ同室に熟睡中の女給某（一八）某（一七）さんに怪し氣な振舞に及ばんとしたところを女將タキさんに氣付かれ階上から電柱を傳つて逃走したものでタキさんの夫は目下前征して〇〇方面に活躍、利雄は女許りの留守宅を寄貨にこの擧に出たものらしく同署では時局柄銃後陣をみだす者としてこの不德漢を斷乎たる處分に付すことになつた

平小鐵道と市會の態度（八）

川崎文治

市民の誤解は市政上に支障

偏破な演說會の愚擧

殊に星代議士は平鐵道が湯本經由に決定して居ると斷言して居る反面に片濱迂回の運動奏効して此の迂回線の**實現は**頗る有望であると說いて居る、此の矛盾した言に依つても平小鐵道の路線候補線が未決定である事は何等爭ふ**餘地の**ない事を明かに示して居る。

然して星氏は最後に、『自分獨りの力でも必らず片濱迂回に敷設して見せる』と大見榮を切つた星氏が事實〃**獨力で**〃片濱を敷いてくれるものなれば、地方民の幸福是れに過ぎたるはない。而し其の大見榮が大風呂敷だつたと解る樣な時が來てからでは地方民は浮ふ瀨がない事を心配する。

また星氏としても、夫れ程の**大決心**を持つて居るとすれば、演說會で『片濱を支持せよ』と聽衆をアジつて人騷がせをする必要はないではないか。然り、吾々はあの演說會を目して徹頭徹尾人騷がせを信じて居る。

眞に平小鐵道の路線問題に關して**嚴正な**る批判を聽衆に求めんと欲するならば、何故に『白紙還元』を主張する側からも登壇者を物色しなかつたか、單に片濱のみを謳歌して爭奪を是れ事とする側からのみの**登壇者**に依つて呼ばるゝ處を以つて聽衆を首肯せしめんとするは、是れ偏破な說の押し賣りである。

吾々は同問題に關して如何に讒謗さるゝと雖も中傷さるゝと雖も、夫れは毛頭恐れない、是れ皆自己の不德の致す處と諦めるであらう。然し乍、何等か爲めにせん者の叫ぶ處に依つて、市會に暗影ありとの觀念を市民に抱懷せしめる事は**今後の**市政の運用上に蹉跌を來さしむるものであり、平市の進展上にも惡影響あるも懼れたが故に、吾々は市政明朗化の建前より、聽衆諸君の惑はさるゝ事なきを欲し、あの演說會に於て、『我々を登壇せしめよ』と幾度か迫つたのであるが多勢を頼んで吾々を壓迫し、遂に意見發表の機會を與へなかつた。（續く）

時局と納稅成績

平稅務署長 高屋俊造

支那事變勃發以來既に四ケ月、東洋永遠の平和を確立する爲國を擧げて聖戰に乘り出したのである。忠勇なる我が將士は萬難を排し勇躍又勇躍暴戾飽くなき敵軍を膺懲しつゝ目的の達成に猛進中なるは頼母しき極みである。銃後の國民亦一致團結後顧の憂なからしめんと其の支援に努めて居るは當然のことゝ思ふ、それで納稅に現はれたる結果はどうであるかと謂ふに、十月は恰度增稅後第二回目の個人所得稅第二期分及第三種所得特別稅の初回に當る第一期分納期であり此の所得特別稅は支那事變費の一部に充當せらるゝ爲本年創設した新稅の親玉で當時大藏大臣も國防獻金の一種であるとさへ說明して居る程時局と重大なる關係のある國稅である。先づ第三種所得稅の成績から見ると當管內一市三十八ケ町村の昭和十二年分年稅額一三一、一五五圓此の四分の一が第二期分で三二、七八八圓納稅人員一六〇二人の多きに上つて居るが內四倉町に於て只一人の滯納者があつたのみで外は全部完納の成績を擧げられたのである。此の事は當稅務署創始以來のレコード破りで實に空前の好成績と云ふべく誠に感激に堪えない次第である。

殊に平市の納稅者五二一人中一人の滯納もなかつたことは從來の事蹟から見て全く驚異的現象と申しても決して過言ではない。

次に所得特別稅であるが此の納稅人員は普通所得稅と同樣一、六〇二人總稅額は本所得稅の七分五厘即ち九、八三六圓中の第一期分は其の三分の一額たる三、二七八圓なるも本稅金は時局と最も關係の深い事變費の一部と云ふ不動の精神的信念より銃後の國民は競ふて納められたかの樣に全管內一人の落武者もなく完納を見たことは國家の大業を克服する所以と心强く感ずるのである。

何しろ稅金のことは一國の財政、産業其の他國民經濟の各方面に影響する所甚大なるは勿論、殊に各人の負擔は直接其の懷具合に響くことでもあり吾々稅務當局に於ては調査に當り最も愼重なる態度を以て課稅の平衡に鋭意努力致して居る心構をどうぞ理解して頂きたい。終りに納稅者の苦心並に今回の成績擧揚のため渾身の熱誠を拂はれた各市町村當局に對し深甚の敬意を表する次第である。

山間部の水稻 意外な減收

植付後の被害

郡下に於ける水稻は大半鎌入を終了したがその收穫豫想を見ると平坦部は平年作に比して二割乃至一割五分の增收を示してゐるのに反し山間部は植付後に於て旱害を蒙つた結果意外にも一昨年の冷害に等しい收穫減を來して居り甚だしいものになると七割方を減じてるものもある目下平稅務署には免租申請の手續き中のものも旱害虫害を通じ百餘町歩に達してゐるが山間部農民達は豐年を裏切るものとして悲鳴をあげてゐる

平署管內の 秋季消防檢閱

來月各小學校で擧行

平署管內の消防組秋季檢閱は來月五日から十九日まで各町村小學校グランドに左の日割で擧行されるが小名濱、江名、玉川、磐崎の四ケ町村日割は未定である

▽五日湯本、鹿島、永戶▽九日豐間▽十日高久▽十一日飯野、箕輪澤渡▽十二日內郷（金坂グラウンド）三坂、好間▽十三日夏井▽十七日神谷▽十九日赤井上小川下小川聯合（赤井第二校）

適性檢査も行ふ 移動班職業相談

小學生にも職業指導

縣では臨時職業相談所を開設すると共に小學校卒業兒童に對し移動職業指導を行ふとともに希望者の相談に應じ必要に依り適性檢査も行ふ豫定で平地方には佐藤（秀）主事補佐藤（忠）主事補堀江屆が當る筈だが期日は未定

學務部長視察

和田本縣學務部長及び影山教育課長は今十三日磐中に開催された縣下男子師範學校長並に中學校長協議會に臨席されたのを機に平商、磐女兩校を視察した

〃〃〃〃〃〃アイアンラツシユ！ また鐵泥學がる

トロ車輪を盜んで

鐵類の高騰から頻々として鐵泥棒が跳梁するがこれもその一つ――箕輪村榊小屋農佐久間宮吉（六五）は去る九月中二回に亘つて好間村隅田川炭礦からトロの車輪五個を竊盜、好間村古物商根岸喜太郎に情を打明けて賣却したことが發覺、十二日佐久間は竊盜根岸は贓物故買として平署に檢擧取調べを受けてゐる

正札堂移轉

既報品洋服の廉賣で知られて居る平驛前通り正札堂洋服店は此程本通り目拔の場所三町目梅原米穀店隣りに移轉進出した

空襲の備へ 明晩聚樂館に

防空講演と映畫の夕

（既報）來る十六日からの防空演習に豫備智識を涵養する縣主催の『防空講演と映畫の夕』は明十四日午後七時から平市聚樂館に催される、講師は青柳警察部長福島聯隊區付本間中佐青沼市長其他

植田の防空

植田町では十一日午前八時から同町小學校に防空演習協議會を開催、植田署管內二町八ケ村の町村長、兵事主任、消防組頭、學校長等の各關係者百餘名が參集萬端の準備について打合せを行ひ正午散會した

諏訪樣盛る

渡邊村郷社諏訪神社は好子祭りの神樣として又武神として濱通りに知られ武運長久、戰勝祈願の願をかけるもの多數殺到してゐる

縣下學童籠球大會 制覇を目ざす

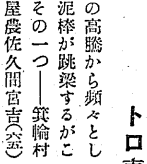
本郡代表出場メンバー 明日の奮戰を期待さる

既報縣下小學校兒童の籠球大會は愈々明十四日午前九時から郡山市に開催されるが石城方部からは過般の郡下大會に優勝し[illegible]女子平第三、高等科男子平第一、同女子平第二の各チームが本郡を代表出場各方部の强豪と覇を爭ふ事となつた、ベストメ[illegible]戰を期待されてゐる、出發は明日平發午前六時十二分

▲第一（尋常科）相澤文雄、藤居喜一郎、佐藤政尙、阿部榮一、豊口秀哉、佐藤保夫、淺田泰、馬上勝司、門馬照次（高等科）箱崎甫、矢代弘淑、齋藤茂文、齋藤清治、木下藤三、久栖康直、國府田善文、吉成三郎、高橋滋

▲第二（高等科）片寄泰子、酒井サダ子、織田マサ、增尾マサ子、菀珠江、天野文子、阿部英子

▲第三（女子）木下喜代子、西郡京子、新妻ヒテ、布施敏子、松本貞子、吉田トシ、山廼邊キミ、宇田川アヤ子、菊田常子、鈴木トミ子新妻愛子



今晩の部
▽後六、〇〇 （子供の時間）「軍歌を歌つて」椎木玲子 外
▽後六、二五 講演「非常時對策と郷倉」田村浩
▽後七、三〇 （京城より）講演「精神作興運動と朝鮮民衆の時局認識」朝鮮總督南次郎
▽後七、五〇 講演「日本國民への挨拶」滿洲國國務總理大臣張景惠

◇皇軍慰問の夕◇
▽後八、〇五 「銃後の街頭」（戰線へ送るルポルタージユ）柳家金語樓 外
▽後八、五〇 レヴユー「たからじえんぬ」寶塚少女歌劇

明日の部
▽後一、〇〇 滿洲より吹奏樂「お洒落盜賊」外ハルピンブランスバンド
▽後一、二〇 國民精神總動員大講演會實況（仙臺市東二番丁尋常小學校講堂より）
▽後六、〇〇 （子供の時間）ラヂオスケッチ「島の秋祭り」臺北童話劇協會
▽後七、四五 ラヂオドラマ「白衣の天使」松竹映畫連中
▽後八、一五 日曜講談「明治外交の働き」日清戰爭の頃第一回
▽後八、五〇 浪花節「この母を見よ」天中軒雲[illegible]

白柄劍風連

（[illegible]上映中）

大島多慶夫作
井川洗厓畫
（[illegible]）布施長春畫
村瀬春映畫

長兵衛と源太（八）

……二九九……

『ところで長兵衛さん、さつきのつゞきぢや、權兵衛のことだが一つ俺に免じて一切何事も云はんで置いて貰ひたいのぢや』

『承知いたしましてござります、あの男はまつたく俺以上に思慮のふかい人間でござりますから、俺の傍には缺けてならない男でござります』

『俺が試して見たが腕も確ぢや』

『左樣で……？』

『ほかに旗本に勝れたものが居るかな』

『四五人は……まづ旗本衆と並んで劣らない腕をもつて居ります』

『はゝあ、いや、旗本のなかでもまづ敬服するに足るやうな人間は尠い、白柄組では阪部三十郎に劣りませんが、その時はどう裁いたらば宜しいでせうか』

『大丈夫だ』

『參りますまいか』

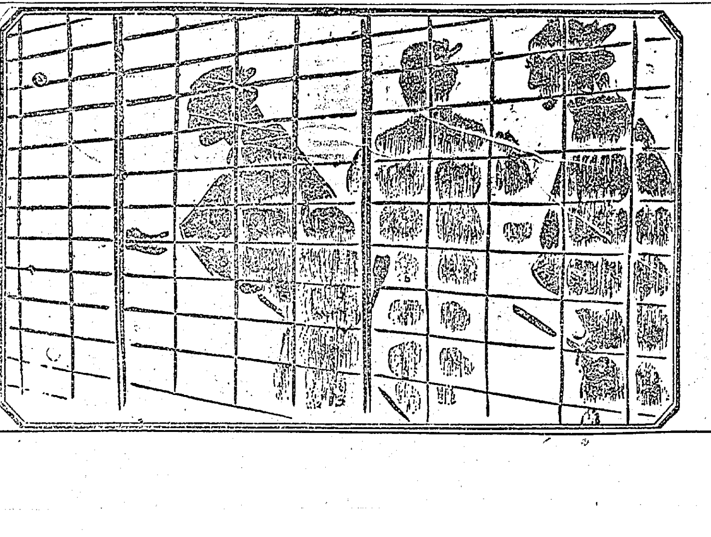
『來ない、若よこしたら紀州藩に人物なし、またその時は俺があんたに代つて裁く、面倒くさくなつたら腕ぢや』

と、源太は自己の腕を叩いて見せた。

長兵衛も何となく心强く感じたちようど、表の方に入亂れた跫音がひゞいて、廊下に立つた權兵衛と仁兵衛と長五郎の姿が、西に傾いた陽の影をうけてはつきりと映つた。

× ×

江戸の市中には[illegible]刺客が横行をしてゐた。町奉行の警戒の手はすこしも緩めないが、刺客の神出鬼



た。

『宮樣欣吾めにござります』

『お、欣吾か、開けろ』

『はい』

と、前髮姿しい小姓の宮樣欣吾が、しとやかに手をついて、畏まつた。

『用事か』

『はい、いつもの御方が參られました』

『大學等か』

『はい』

『通せ』

『はい』

と、欣吾は靜かに云つた。

信綱は急いで書類を片付けてから、ゆつたりと立上つて縁側へ出た。

秋もやうやく闌であつた。牡丹の花のやうな雲の塊が、ところどころに見えてゐるが、海のやうな空が拭きとつたやうに綺麗に晴れてゐる。前栽の萩も紫苑も枯れてしまつた。[illegible]

ましてござります』

『何、何、成瀨殿が……まだ奉行所の方からは何の報知もないが……？』

『最早その報知が參るでござりませうが、何しろ、未だ何人であるかも判りませんし、これと云ふ手掛りも一向にござりませんので、それ等が朧氣ながら判りましたらば、石谷丹波守樣が御出でになりますでござりませう』

『[illegible]の殘念たな』

と信綱は眼を濕しさうに曇らせて呟いたが微に溜息をついてから

『大學等、その方、如何いたしてその事を承知いたしたか』と、鋭く訊いた。

『ちやうど御屋敷へ伺はふといたして、現場に通り合はせましたので……？』

『現場に……左樣であつたか。そして、成瀨殿の傷は……？』

と、信綱は唇を嚙みながら[illegible]

今と昔の戰爭の相違

肉彈戰から―科學戰に變化

戰爭は益々擴大し、毎日の新聞は皇軍の活動の記事や慰問でにぎはつてゐます、けふは昔と今の戰爭のかはつてゐる點をしらべて見ませう、昔の戰爭は、今皆さんが見てゐるやうな＝武器＝などは少しもなく、戰國時代以前のごときは弓や槍、刀などを持つて一人と一人がお互ひに戰つたものです、つまり文字通りの肉彈戰だつたのでしたその後鐵砲が出來ましたが火繩銃のやうな不完全なものだつたので僅に弓の代用をした位にすぎません、ところが三百年程前の天正四年に大砲が傳はり、彈丸一發で十人から、多いときになると百人近くの兵士を殺すやうになつたので從來の肉彈戰は技術戰に變化してしまひました、今日では機關銃や飛行機その他の精巧な兵器が自由に用ひられ、戰爭區域外まで爆彈が投下される狀態なので戰爭の勝敗は技術で決せられるやうになつてしまひました

＝日清＝ 戰爭は敵味方の接戰でしたが、日露戰爭になると露軍に機關銃が現れて容易に日本軍を近づけませんでした、勇敢な日本軍が二〇三高地で苦勞したのはそのためでした、この技術戰の一歩進んだのが科學戰で、歐洲戰爭は代表的なものです、爆藥を利用して飛行機が活躍するかとおもふと、タンクが突然出動したり毒ガスが用ひられたりして近代科學の秘術を盡した戰ひが展開されました、その毒ガスの使用は今では禁止されてゐますが、最も恐るべき武器として各國ともに研究をつづけてゐます、最近ではラヂオの發達がいちじるしく、テレヴイジヨン、殺人光線の完成もつたへられて兵器として利用されてゐます

殊に飛行機の進步には物すごき物があります、將來の戰ひでは地上部隊は第二線にひかへ、空中戰で火ぶたがきられ、數時間の後には＝都市＝が燒夷彈で見まはれるといふ事になるでせう、防空演習が盛んに行はれるのもこのためです、ですから各國共に豫算の大部分を軍事費にあて國防第一を目標にしてゐるのは無理のないことだと思ひます、中でもソビエツトロシア、イタリア、ドイツ、中華民國等がすばらしい力の入れ方をしてゐます

笑話三題

×「日本中で一番大きな靴をはく人知つてる？」

○「知らないよ、ぢや君知つてるのか？」

×「知つてるさ」

○「誰だい」

×「日本中で一番大きい足の人さ」

◇

凸坊「お母さんたゞ今ッ、卵買つてきたけど何をこしらへるの」

お母さん「オムレツ」

凸坊「あゝよかつた、そんなら割れてもいゝんでせう」

◇

「君さつきあすこで、どつかの西洋人と話してたね」

「ウン、あれはアメリカ人だよ、道をしへてやつたんだよ」

「ヘーエ、ぢや、君英語を話せるんだね」

「ちがふよ、向ふが日本語をはなせたんだよ」

零下三、四十度とはどんな寒さか？

北支にゐる兵隊さんたちの―ご苦勞はいかに

兵隊さん達が戰つてゐる北滿、北支の温度零下三、四十度といふとどんな寒さでせうか？これについてご經驗の深い三隅大佐をおたづねしますと、

◇―零下七、八度になると卵がこほり、水氣の多い玉ねぎなどが、石のやうにかたくなります

零下十度をこえますと、人間の睫や鬚が、白々と霜をふいてこほりますが、十度以下になれば、もうなにもかも凍つてしまひます

◇―地面が十度内外になると、地面から一尺ぐらゐ下がこほり、二十度を越えると、一メートルぐらゐこほりつきます

さて兵隊さんがよわるのは、飯盒がこほつたり、水筒のお水がこほつてしまふことです。またご飯をたくのに、せつかくのお水がこほつてゐますから、氷や雪をとかしてたくのですが、その苦勞はたいへんなものです

◇―零下三、四十度の寒さに、風がピユーピユーふきだすと、防寒服を着てゐても、眞ツ裸體でゐるやうな氣がします

砲を打つ時など、防寒手袋をはめますが、それでは引金をひくとき、不便ですから、別にもう一つ指袋をはめるくらゐです

◇―こほつた雪や氷の上を、行軍する兵隊さんは、靴の裏へ「スベリ止め」を打ち、お馬は「スベリ止め」のかはりに、特別にこしらへたスベリ止め蹄鐵を打ちますがこれが非常につかれて、お腹がペコペコになつたところへ、氷のやうになつた御飯をいたゞくのですから、かういふ場合に、ボツボツと湯氣のたつお湯を見ると、兵隊さんたちは躍り上つてよろこびます

（寫眞は防寒具をつけた我兵）

子供詩

落ち葉　加藤 哲也

落ち葉
ハラハラ
日がくれた
あかい空だよ
からすがかへろ

○

落ち葉
ばちばち
ひとかごたいた
いももやけたよ
おいらもかへろ

星の町　福田 茂夫

み空にきれいな　町がある
星のお家が　ならんでる

○

引つ越しずきの　流れ星
いつも泣いてる　涙ぼし

○

ピカピカ光る　金の星
キラキラ光る　銀の星

○

み空にきれいな　町がある
住んでるものは　夢ばかり

漫謠

オヨメ　吉田眞里

アタイ大きくなつたら
オヨメ行くの
そしてオトーフかつて
オミヨツケこさへるの

アメコンコふつたら
パヽのカサもつて
エキへ行くの
おむかへに

火鉢を圍んで

炭火の理科問答

皆さん、お寒くなりましたね、勉强がすんだら火鉢の方へいらつしやい、温かい炭火を圍んで、木炭についてやさしい理科問答をしてみませう――

問 木炭はどうして作りますか、木炭に堅ずみ、土竈ずみなどいろいろあるのはなぜでせうか

答 木たんをつくるのには大抵山腹にすみかまどをつくりそのなかに木材を入れ、それに火をつけて蒸し燒にすればよいのです、すみに色々の種類のあるのは木材の種類と燒く温度とによつて出來るのです、樫のやうに堅い木材を燒くと堅ずみが出來、杉、松を燒くと土がまずみが出來ます、燒く温度がひくいとやはらかいすみ、高い時には堅ずみが出來ます

問 すみ火を起す時には吹きますね、吹いて火がカンカンとおこるのは不思議ですね

答 すみがおこるのには空氣の流通がよくなくてはいけません云ひかへれば、物がもえるのに必要である酸素を多く與へなくてはなりません、それ故吹いて氣流を作り多くの酸素を送るので火がおこるのです、けれどもこの時、つめたい空氣を澤山送りすぎると、なる程酸素は多いけれども温度が下るために火は早くきえてしまひます

問 堅ずみは火がつきにくゝけしずみは火がつきやすいのはなぜでせうか

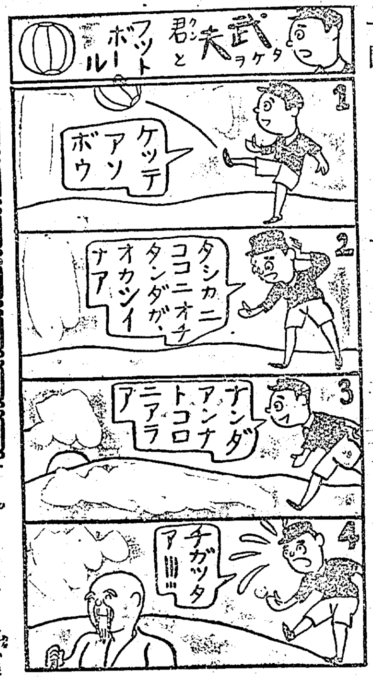
答 一體、火がもえるのにはある一定の温度にならぬともえぬものです、堅ずみは今お話したやうに堅い木を燒いてつくつたものですから、木の質が密でありますから熱を導きやすいために一部分を熱してもその熱を他の部分に導き去るので、その所が容易にある一定の温度に達しないから火がつきにくいのです、けしずみは反對にその質が鬆くて粗であるから熱を導きにくゝ、一部分が熱せられてもその熱を容易に他の所に導かないからその熱をうけた所の温度が高くなるので火がつきやすいのです、質の密であるマキに火がつきにくゝ、質のあらいカンナ屑に火がつきやすいのもこれと同じ理由です

問 すみがもえると青い炎が出ますね、あれは何でせうか

答 すみがもえると炭酸ガスを發します、その最初に發した炭酸ガスが強く熱せられた木たんの間を通る時に一酸化たん素といふガスに變じます、このガスが木たんの上の方に出て來て空氣にふれて再びもえます、あの青い炎をだすのはこの一酸化たん素がもえる時の色なのです、この一酸化たん素は非常に毒ですからもし青い炎をだしてもえればよいが、もえないで逃げ去ると危險ですから注意しなくてはいけません、これには空氣の流通をよくして、もえるたん素（すみの成分）はすべてたんさんガスとなつて、一酸化たん素にならないやうに注意してください

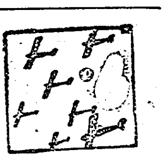
問 すみ火に灰をかけておくと長くもつのはなぜでせうか

答 今お話した通りすみ火がおこるのには空氣の流通をよくしなければいけません、空氣の流通を絶つと火がきえてしまひます、そこで空氣の流通を程よくしておくと火は盛んにもえないが、またきえもしないのです、灰をかぶせておくとすみびがもつのはこのためです、一體、灰はもえないもので、細粒間に空隙があるので、空氣の流通がゆるやかですから、すみびはさかんにおこらず、もつのです



武夫君とフットボール

1
ケッテアソボウ
2
タシカニココニオチタンダガ、オカシイナア
3
ナンダアンナトコロニアラア
4
チガツタア!!!



軍國海軍小說　愛慾非常線

寺崎洋々洲 作
松村秀彦 畫

…… 四七 ……

毒刃（二）

『何だと、よし、それでは名乘つてやるから驚くな、今ではこんな面になつたが手前のお蔭で企らんだ仕事をやり損ねた山田だ！』

『えッ、山田？』

豫ねてその名前はマルゲリットよりきいてゐるので大いに驚いた彼女は、逃ぐるが第一と、足早にその場を去らうとすると

『やい、女奴、逃げたつて駄目だッ』

後から追ひかけるや、矢庭に隱し持つたる短刀を拔き放ちて哀れむ可しテレザの胸部深く突きました。

『キヤツ―』

と、悲鳴をあげて倒れる彼女を心地良げに見下ろした山田は忽ちテレザの上に馬乗りとなり

『フン、ざまあ見やがれ、さあ引導渡してやるから往生しろ』

憎む可き山田は、未だ彼女がマルゲリットと思つて將に止めをテレザの胸元へ突き刺さんとする時、彼方より巡査の角燈が見えたので、そのまゝ彼は一目散に逃走してしまつた。

一方、そんな大椿事が出來たとは少しも知らないマリゲリットは、あまりテレザの戾りが遲いので今かくくと待つてゐたが早や十二時にもなるのに未だに戾つて來ぬので獨り心を痛めてゐると、ボーイが顏色を變へて入つて來た。

『大變ですよ。唯今野毛山から戾つて來た運轉手の話で[illegible]りませんが何でも野毛大神宮の境內で、一人の外國婦人が人手にかゝつて殺されたと云ふので大變な騷ぎださうですが、その年格好が丁度御同宿のテレザさんのやうでございますよ』

『えッ、テレザさん？ さ、それは大變です、彼の方は私の代理で野毛へ行つたのですから―さ、早く車を、車を！』

ボーイは呆氣に取られてゐるのを追し立てたマルゲリットは自動車を命じて野毛山へ急ぐと殺人強盜があつたと云ふので大變な人出であるが、被害者は野毛警察署へ收容されたときいたので、直に同署へ向はんと坂路を下りて來ると闇の木影から

『其車一寸待てッ！』

と呼止めた男がある。

闇の中から大喝してマルゲリットの乘つた自動車を止めた怪しい男は、ツカツカと運轉臺の側に進み寄り

『おい、此の車は何處から來たのだ』

運轉手は驚いたが直ぐ落着きある態で

『オリエンタルホテルからお客様を乘せて野毛へ參つたのですが、少しお屆けすることがありますので、これから警察署へ參るのです』

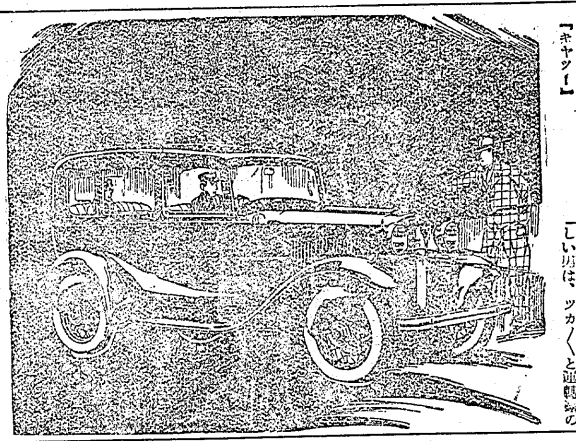
『さうか、それなら僕はかう云ふ者だから車中の人に通じて呉れ』

差出した一葉の名刺に依つてみると、此の男は野毛警察の部長巡査で三木文夫と云ふものであつた。

『あゝ左樣でございますか』

と運轉手は直に飛び降りてそれをマルゲリットに渡した。

彼女がそれを取上げてみると名刺の裏面には暗號文で刑事と云ふ字が記してあるが、萬一の[illegible]した彼女は、右手にピストルを持つて外へ出た。



看護婦及ビ見習看護婦 若干名募集ス
希望者ハ履歴書持參本人來院セラレタシ
北川外科
平市新川町

電話 至急借り受けたし
（姓名在社）

セメントは常陸

御用命は！
大谷建材店
平紺屋町（電三六六番）

防空演習夜間『警戒管制中』の
遮光用カーテン
御注文受賜ります
◇
カーテンと雨具
敷島テント商店
平市六丁目
電話四八三番（呼）

國旗と提灯

吉田眼科醫院
平市紺屋町
電話六八番

旅館 大幸舘
私は平市出生ですから特に郷里の皆様方の爲に御便利を圖ります
主人 比佐棟雄
東京上野驛前（下谷郵便局横通角）
電話下谷六七七番

移轉お知らせ
毎度御贔負下され深謝仕ります、弊店儀今回……
◎平市本通り目抜の場所三町目
に移轉致しました、更に御客様本位に勵む覺悟で御座いますれば何卒倍舊の御聲援の程偏へに懇願申上げます。
本町三丁目（梅原米穀店隣り）
洋服店 正札堂
電話四三六番
◎お洋服は今が買時です
生地は優秀、柄は流行、而も値段は超安値………
此三拍子揃つた弊店の勉強振りをおためし下さい
然も仕立はお誂へと同樣、寸法は特別に各種取揃へ
必ず御滿足の戴ける當店自慢の大サービスです

鈴木醫院
平市田町
電話五八番

銘酒 榮川（エイセン）
名譽賞受領
於第七回東北六縣清酒品評會
◇各清酒品評會成績◇
昭和六年以來全縣下最優等連續入賞
昭和八年〃東北六縣優等〃〃
昭和九年〃全國〃〃〃
いよいよ名實共に東北第一の銘酒となりました。何卒倍舊の御愛顧を御願いたします。
醸造元 若松市 宮森榮四郎
特約店 平市 永山酒店

平病院（電六四一番）
平市警察署側（元共濟病院跡）
院長 醫學博士 鈴木定藏
內科 院長 醫學博士 鈴木定藏
小兒科・婦人科・一般外科・産科 部長 醫學士 池谷宗三郎
皮膚泌尿器科・レントゲン科 部長 醫學博士 鈴木定藏
物理的療法科 技師 岡田重德
藥劑科 部長 藥劑師 吉本孝平
◎診療時間 毎日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）（急患ハ此ノ限リニアラズ）
往診 隨時
病室完備……入院隨時【自炊ノ便アリ】
◎入院料 特等―貳圓 一等―壹圓五拾錢 二等―壹圓參拾錢

第四回
磐城寫友會展
於マルトモ・ホール
十一月十三・四兩日（土、日曜）
觀覽自由

産科婦人科
醫學博士 五十嵐雄二
病室築、手術室完備
平市新川町 電話三六九番